

されど『智』の深さを知る

第18期 都竹 卓哉

高校3年生の夏のある日のこと、私が好きな歌手であり、また、慶應商学部の先輩である miwa がきっかけで参加したオープンキャンパスにて小野ゼミが開催していたオープンゼミの場が、私と小野ゼミとの出会いであり、私の人生が変わった瞬間である。進路や将来に悩んでいた私が「消費者行動」に対して心惹かれたその日の出来事は、大学受験・ゼミ選び・就職活動等の、自身の人生の方向性を決めるような意思決定に対して、間違いなく強い影響を及ぼした。

その日のことは昨日のことに思われる一方で、小野ゼミに入ることに憧れていた私がいつの間にか卒業エッセイを執筆する立場になっていることに対して、驚きを隠せない。多忙を極めた小野ゼミ生活は、本当にあつという間であった。小野ゼミ以外のコミュニティにコミットする余裕などなく、小野ゼミというコミュニティに最優先でフルコミットする生活を2年間送った結果、小野ゼミ生以外との世間話についていけなくなり、世間の流行もほとんど分からなくなるなど、いわば、「井の中の蛙大海を知らず」の状態に陥ってしまった。社会人になるまでにその状態から脱却するべく、何か手を打たなければと思う次第である。

ところで、諸説あるが、「井の中の蛙大海を知らず」という言葉には、「されど地の深さを知る」という言葉が続くという。そして、私は、先述したとおり、小野ゼミというコミュニティにフルコミットする生活を送っていた結果として世間に疎いという状況に陥ってしまったのに対して、そのような生活を送った結果として「地」の深さ、否、「智」の深さを知った。兼ねてから学びたかった消費者行動に関する智はもちろんのこと、ホウレンソウを始めとする人として守るべきマナーに関する智、資料作成に関する智、資料の読み手や発表の聞き手の心を動かす術に関する智など、ここには記しきれないほど沢山の智を、また、小野ゼミとは関係のない大学生活を送る中では知る由もなかったであろう智の深さを知ることができた。ただ、直近の卒業論文執筆活動などを通じて、私はまだまだ至らぬ点ばかりであるということを思い知らされたのもまた事実であり、卒業後もまだまだ精進が必要である。



AMRにて企業賞を受賞した際の記念写真
(著者は左から1番目)



4分野インゼミでの記念写真
(著者は左から1番目)

¹ 物事の道理を理解し、是非・善悪を判断する能力。知恵。智慧。知力。知。
(参照元：『コトバンク』, <https://kotobank.jp/word/%E6%99%BA-564904>)

ここまでの内容を踏まえて、小野ゼミを残し、伝統を築き、学びの場を与えていただいた小野先生、歴代の先輩方、そして、同期に対して、この場を借りて感謝申し上げたい。とりわけ、苦悩を抱えながらも小野ゼミを守り²、何度も初回分のコトラーを添削していただくなど、厳しくも温かいご指導を賜った第17期生OGの江碯舞香さんには、感謝の気持ちでいっぱいである。また、ビジコンに取り組むに際しても、入ゼミ企画に取り組むに際しても、論文執筆に取り組むに際しても、互いに相



個別説明会での記念写真
(著者は左側)

談に乗り合い、一緒にアイデアを考えて資料を作成し続けた仲である同期の井原真衣さんには、「ありがとう」なんて言葉では表しきれないほどに感謝している。絶対に忘れてたりしないが、AMRに徹夜で取り組んだ後にそのまま寝ずに一緒に広告論の授業を受けた日のことも、2人で一から勉強して入ゼミ用特設サイト³を作った時のことも、締切に終われたり上手いいかないことばかりで半狂乱の状態だった自分のことを支えてもらったこと、きっと飽きているのに何度も原稿の添削をしてもらった卒業論文の執筆に関する日々のことも、どれもこれも、真衣ちゃんがいてくれたからこそ生まれたかけがえのない思い出であるということ、また、同期に真衣ちゃんが居なかったらと想像することに対して恐怖心を抱いてしまうほどに、真衣ちゃんには助けられてばかりであり、そして、自分にとって真衣ちゃんは大きな存在であるということ、折角なので書き記したい。

さて、ページの残りの余白を埋めるに際して、新型コロナウイルスの影響で対面活動をほとんど行っていないせいか、写真を貼ってスペースを埋めようにも、貼る写真がない。したがって、入ゼミ代表を務めていたことに関連して小野ゼミに入るかどうか悩んでいる2年生に、あるいは、小野ゼミに入って苦悩しているであろう未来の小野ゼミ生に、はたまた、懐古厨、かつ、卒論執筆時と同様にメンブレしているであろう未来の私などに向けて、小野ゼミ生活を通じて得た教訓でも書き記して、このエッセイを締めくりたい。

1つ。「初心」を大事にして欲しい。第19期生の入ゼミ祝いの際に記した言葉ではあるが、何か辛いことがあった時、必ず支えになるのが、初心だと思う。まず、初心を抱くということ、次に、初心を忘れないこと、そして、初心を思い出すということ、これらを徹底して欲しい。

2つ。意見が対立して苦悩しているとき、「人には人の事情がある、あるいは、価値観がある」という前提を思い出し、人のそれらに対して寛容であって欲しい。特に、他人と意見が合わなくても、その理由が、相手が悪意を抱いているという理由であるとは限らないということ覚えていた方が、身のためであろう。

3つ。「やればできる」という言葉と「雑魚には雑魚なりの戦い方がある」という言葉を忘れないで欲しい。「やればできる」は、とある芸人⁴がよく使う言葉であるが、本当に魔法の言葉である。どんな困難に直面しようとも、どんなに自分の力の無さに打ちひしがれていようとも、自分が発揮できる力は自分が想像している以上のものであり、とことん調べ、考え、時に、周囲の人を頼ることによって活路を見出せることばかりである。そして、組織に貢献するという意味でも、自分の精神状態を保つという意味でも、自分に出来ることに尽力することは重要であり、その取り組みによって、どんな困難も乗り越えられるはずだ。

4つ。「謙虚に、ひたむきに」の姿勢を貫いて欲しい。小野ゼミ生活を通じて様々な力が身についても、それでも、いつでも仲間の役に立てる存在であるために、謙虚に、ひたむきに、努力を続けて欲しい。終わり。

² 参照元：小野晃典研究会 HP、ふるさと、http://news.fbc.keio.ac.jp/~onosemi/persons17/17_esaki_20.pdf

³ http://news.fbc.keio.ac.jp/~onosemi/nyuuzemi_tokusetsu/nyukaimein.html

⁴ https://grapecom.jp/talent_writer/timon-d/